

2016年度計画

下記日程には一部予定を含みます。

3月

3月7日(月):2016年度事業計画説明会開催(企業・団体向け)
大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の事業計画説明

4月

上旬:受入依頼状等を企業・団体に発送
インターンシップ研修生受入の可否及び
インターンシップ受入プログラム合同説明会参加の有無について照会

5月

5月9日(月):受入可否・合同説明会参加可否回答締切
上記送付書類(アンケート等)の回答締め切り

6月

6月11日(土):合同説明会開催(9:00-17:00)

7月

7月初旬:各大学から企業・団体へインターンシップ研修申込書発送
7月5日(火)~15日(金):企業・団体の学生面接 学生の研修希望先での面接

8-9月

インターンシップ研修

9月

上旬:研修先企業・団体にアンケート送付

11月

下旬:拡大懇談会開催

各大学インターンシップ連絡先

2016年度事務担当校

愛媛大学

教育学生支援部
就職支援課
(担当/城戸・奥井)

〒790-8577 松山市文京町3番
TEL 089.927.8923(直)
FAX 089.927.9181
www.ehime-u.ac.jp/

松山大学

教務部教務課
(担当/西村・村上(未)・菅)

〒790-8578 松山市文京町4-2
TEL 089.926.7137(直)
FAX 089.923.8920
www.matsuyama-u.ac.jp/

松山東雲女子大学 松山東雲短期大学

キャリア支援課
(担当/藤田)

〒790-8531 松山市桑原3丁目2-1
TEL 089.913.2610(直)
FAX 089.931.6402
www.shinonome.ac.jp/

聖カタリナ大学

学生部就職課
(担当/蔵前)

〒799-2496 松山市北条660
TEL 089.993.0731(直)
FAX 089.993.0717
www.catherine.ac.jp/

編集・発行/大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会

制作/NPO法人えひめ中小企業支援協会

〒791-8057 松山市大可賀2-1-28 アイテムえひめ tel.089.968.3112 fax.089.968.3107

インターンシップ・プログラム 実施報告書

2015 Internship Program Report



大学コンソーシアムえひめ インターンシップ部会

2015年度

ごあいさつ

2015年度のインターンシップ研修実施の御礼と 来年度以降の取組へのご協力のお願い

大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会 2015年度部会長 桐木 陽子

(松山東雲女子大学・松山東雲短期大学キャリア支援部長)

地域の企業・団体のみなさまには、日頃から大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の活動に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。本年度は、愛媛大学・松山大学・聖カタリナ大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の5大学から昨年度より104名多い494名の学生を送り出し、研修を受け入れていただきました。受入先の企業・団体のみなさまには、これら多くの学生をご指導いただき、インターンシップ研修を無事に終えることができましたこと重ねて御礼申し上げます。

大半の学生たちは、インターンシップ研修に満足し、「自分と向き合えた」「仕事や働くことについて具体的に考えることができた」「“就活”だけを意識して参加するのではなく、“これからの40年間でどのように生きていきたいのか”を考える上でも大変有意義な研修だった」等、高く評価しています。感想の一部をこの冊子に紹介しておりますので、ご高覧ください。大学としては、こうした学生たちの感動が研修直後の一時的な高揚感にとどまることなく、学んだことを日常の学生生活で活かし、定着させるにはどのようなフォローが必要であるか引き続き検討して参りたいと思っております。

一方、研修生を受け入れてくださった企業・団体のみなさまからも、「インターンシップ研修を担当した職員が成長した」「研修生を受け入れたことで職場が活性化した」等、概ね好評をいただくことができました。これもひとえに、本プログラムの趣旨をご理解いただき、学生たちと真摯に向き合っていただけたおかげと心から感謝いたしております。

インターンシップ部会では、次年度以降も学生を送り出す大学側と、受け入れていただきます企業・団体等のみなさま方双方に有益なインターンシップ研修となるよう、さらなる質的向上を目指して努力して参りたいと存じます。今後とも、ご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

これまでの経緯



1990年代初頭にバブル経済が崩壊して以後、「失われた10年」はこれまでの日本型システムの多くを変容させ、特にその当時、新卒学生の就職状況が悪化する中で、フリーターやニートといった若者雇用問題が大きな社会問題となっていました。

そのような中、1997年9月、当時の文部省・通商産業省・労働省の三省は合同で「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」を発表しました。在学中に就業体験を行うというこれまでの学校教育にはない新しい取り組みが政策レベルで模索され始め、今日では多くの高等教育機関でその実践が展開されています。

愛媛県内の高等教育機関でも独自にインターンシップを教育課程に取り入れてきましたが、無差別な受入要請が地域におけるマッチング秩序を混乱させるという事態が発生しました。2003年、受入先等の要望もあり、愛媛県中小企業家同友会の協力を得て、県内4大学(愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学)が中心となり地域における大学生のインターンシップを統一的に運営するため、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」が設立されました。

2009年には、愛媛県内で大学コンソーシアムができ、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」は「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行しました。しかし、設立当初からの目的や地域の各組織との連携関係を変えることなく、2013年度からは聖カタリナ大学も加え、5大学で発展的に事業を展開しています。

1997年

「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」が発表される



2003年

「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」設立



2009年

「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行



2013年

聖カタリナ大学も加え愛媛県内5大学として発展的に事業を展開

インターンシップへの取り組み

● 愛媛大学

愛媛大学は「学生が入学から卒業・修了まで安心して充実した大学生活を送ることができる学生支援体制を築く」ことを大学憲章で謳い、また「地域にあって輝く大学」を創ることを大学の理念としています。

法人化以後は、キャリア教育を単なる就職支援の問題ではなく、人生の新しい段階(社会)へと移行する若者の成長を支える教育として捉え、教育改革を行ってきました。2003年の愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会によるインターンシップが始まって以後、インターンシップは社会へと移行する学生の成長を支える重要な教育活動として位置づけられています。その取り組みには毎年約150人の学生を送り出し、これまで累積で1500人以上の学生にコンソーシアムえひめによるインターンシップを経験してもらったことになります。

また、学生がインターンシップを受ける研修先にも多様化が見られます。愛媛大学生のインターンシップ受入先の数は微増ですが毎年増加傾向にあります。これは、愛媛大学の学生が様々な受入先にインターンシップに行っていることを意味し、地域で活躍の場を広げていることの証左とも言えます。学生が地域社会により目を向けていくことにインターンシップの効果が見て取れます。

愛媛大学は、2016年度、地域の課題を解決するための人材を育成する「社会共創学部」を設置します。社会共創学部では、トランスディシプリナリーの理念の下、多彩なカリキュラムが用意されますが、社会共創学部の学生のほとんどが就労体験(インターンシップ)を行うことが企画されています。また、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」の採択により、地域に貢献できる人材を育成するため取り組みが全学で行われています。今後とも変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

● 松山大学

松山大学におけるインターンシップの取り組みは、経営学部において1995年に学生自らが研修受け入れ先と受け入れ交渉を行い、職場研修を行う方式により開始されました。また、経済学部では1998年に愛媛県中小企業家同友会と西四国観光ネットワーク「るーらるばけっと」の会員企業を中心とした研修受け入れ先に学生を派遣し職場研修を行う方式により開始され、その後制度が統合され、2002年度からは文系学部すべてで実施される全学部共通のプログラムになりました。

さらに、これまでは「共通教育科目」の1つであったインターンシップ関係科目が、2012年度からは独立した「キャリア教育科目」として位置づけられ、大学の教育活動の中で、ますます重要なものとなっています。

本学のプログラムは、前期に事前講義として「インターンシップ活用Ⅰ」(全15回の講義)、夏季休暇期間を利用した「インターンシップ研修」(実働30時間以上、もしくは実働60時間以上の実務研修)、さらに後期に事後講義として「インターンシップ活用Ⅱ」(全15回の講義)という形で実施しております。

松山大学では、2015年度、187名の学生が「インターンシップ研修」を行いました。毎年、研修を受けた学生の代表による研修報告会を開催するとともに、各受け入れ先の研修報告を冊子にまとめ、その成果を公開しています。このような教育活動が可能となっているのも、ひとえに研修生を受け入れてくださる事業所・団体があつたればこそであります。インターンシップにご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げますとともに、今後の変わらぬご支援をお願いいたします。

● 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

本学では、2003年度より女子大学および短期大学でキャリアサポートセンターを中心にインターンシップ研修を進めて参りました。現在はキャリア支援課において、インターンシップ研修や低学年からのキャリア教育、就職活動に至るまで一貫して支援を行う態勢を整えております。2012年度から2014年度まで取り組んだ文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」では、卒業生や愛媛県内企業等を対象とした産業界ニーズに応える“汎用的能力”に関するアンケートや在学生・卒業生の実態調査を実施いたしました。それらの結果を踏まえ、学生の主体性や課題発見力強化のため様々なキャリア支援プログラムに挑戦しています。

また、教育課程にもキャリア教育に関する科目を設置いたしております。女子大学では、様々な社会人を講師に招き、職業について考える「キャリア論」や「ビジネスコミュニケーション」などの科目を配置し、次年度からは1年次からインターンシップ研修やPBLを取り入れ初年次教育を強化します。短期大学では、従来より職業に直結する教育を展開して参りました。中でも現代ビジネス学科では、1年次からインターンシップ研修を含む多様なビジネス体験を取り入れた科目を設置し、ビジネス社会に必要な知識・技能の習得を目指した体系的なカリキュラムを展開しています。

このように女子大学・短期大学ともに、全学を挙げてインターンシップ研修に取り組み、事前・事後指導の拡充に努めております。今年度は、学内で開催されましたインターンシップ報告会に受入企業・団体様にもお越しいただき、学生の“気づきや振り返り”をサポートして頂きました。自分自身と向き合い、社会人としての責任の重さを痛感したインターンシップ研修の学びが、さらに深まる大変有意義な機会となりました。受入企業・団体の皆様におかれましては、引き続き“働くことの意味・やりがい”などについてもご指導賜り、今後とも主体的に考え行動できる学生の育成に変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

● 聖カタリナ大学

聖カタリナ大学は、2013年度より大学コンソーシアムえひめのインターンシップ・プログラムに正式に参加させていただいており、本年度(2015年度)で3年目となりました。

本学では、就職課を中心に行っている就活支援のさまざまな取組みにくわえ、「インターンシップ」(人間社会学科3年次前学期、週1回、全15回)という科目において、インターンシップのための事前指導を行い、研修に必要な知識やノウハウの習得を図っています。2016年度からは、人間社会学科にくわえ、社会福祉学科および健康スポーツ学科でも「インターンシップ」が正課科目となります。地域社会に貢献する多様な人材を養成するため、今後も引き続きキャリア教育の充実に取り組んで参ります。

「インターンシップ」の授業内容としては、担当教員によるキャリア意識の形成や職業観に関する指導のほか、外部講師によるマナー講習および就職活動等に関するレクチャーを行っています。また夏休み期間中の研修ののち、各自の学びを「インターンシップ研修報告書」として冊子にまとめるとともに、後学期に研修報告会を開催して、成果の共有と振り返りを行っています。

本年度は、人間社会学科の3年生36名をインターンシップ研修に送り出すことができました。参加学生の様子を見ますと、研修を通じて、職場で働くことの厳しさや責任の重さを実感したり、また他大学の学生から刺激を受けたりして、態度と意識の両面で大きく成長する姿を見て取ることができました。各学生が就職活動を行い社会に出ていくにあたっての課題や自らの方向性について考える格好の機会をいただくことができました。

本学の学生を受け入れて下さった企業・事業所のみなさまには心より御礼を申し上げますとともに、2016年度のインターンシップ研修におきましても引き続きご指導をよろしくお願い申し上げます。

2015年度 インターンシップ研修報告

今年度も県内5大学に在籍するたくさんの学生が参加し、インターンシップ研修が行われました。受け入れ企業向けの事業計画説明会を始め、年間を通じた研修事業の状況をご報告いたします。

事業計画説明会



受け入れを検討されている41の企業・団体等に向け、事業の方針やプログラムを説明。その後、大学関係者も加わり、「インターンシップの事前・事後研修の充実に向けて」と題し、ミニワークショップを開催しました。各大学から紹介されたプログラムに対し、改善点などをグループ毎に討議し、発表。その内容を、今後の事業展開に活かしていきます。

合同説明会

愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学に在籍する600名以上の学生が参加。早々に満席となり、立って話を聞く学生が出るほどの盛況ぶりでした。その後は、参加企業や団体のプレゼンテーションを聞き、個別面談ブースをまわって研修内容の説明を受けたり、様々な質問をしたり、活発に活動していました。

拡大懇談会



その年の事業内容を総括するため、毎年この時期に開催しています。今年度、研修生を受け入れていただいた38の企業・団体にご参集いただき、株式会社ビスタワークス研究所の長山大助氏に「インターンシップを活用した人材育成」と題してご講演をいただき、その後、グループワークを実施。大学関係者も加わり、「“人を育てる”を考える」ことをテーマに活発な意見を交わしました。



3/2
月

4月
下旬

インターンシップ受入プログラム合同説明会への参加の有無とインターンシップ研修生受入プログラム内容に関するアンケート送付

5月
下旬

アンケート等の締め切り

6/6
土

6月
下旬

各大学から学生の研修申込書を研修希望先へ送付

7月
下旬

研修希望先での面接

8月～
9月

インターンシップ研修
(5大学合計494名が
99の企業・団体で研修を受ける)

9月
下旬

インターンシップ研修生受入企業へのアンケート
(回収数78／配付数99)

11/17
火

参加者の声

愛媛大学

法文学部
人文学科 3年

まつら ゆうき
松浦 有希

研修先 東京海上日動火災保険株式会社

このインターンシップを通して1番得たものは、仲間との協調性です。インターンシップではひと班6人程度に分かれ、与えられた課題について班のメンバーで協力し最後の発表に向けて準備していくというものでありました。課題は損害保険についての知識が必要であり準備を通して会社の保険についても学ぶことができました。10日間という限られた時間の中で、班の中で役割分担し効率よく進めていけるようにしたり、話し合いで意見を出し合ったり、発表の際にどうすれば相手により明確に伝わるかなど文章の試行錯誤を繰り返したりしました。時間外に集まって作業をしたこともありましたが、最終日の発表が終了した時にはメンバー全員が達成感で溢れていました。インターンシップは会社についてや職場の雰囲気などを知るいい機会なのですが、今回はそれだけではなく更に得たものは大きかったと思います。

インターンシップは、自分自身の将来を具体的に考えるいい機会になり、実際に働かされている方の声を聴けるチャンスでもあります。就職活動をはじめるいいキッカケになったと私は思っています。

松山大学

経済学部
経済学科 3年

こうざい みゆき
香西 美幸

研修先 株式会社 三好鉄工所

私は今回のインターンシップを振り返ってみて、参加して本当に良かったと思います。2週間の研修では多くのことを学ぶことができました。モノづくりに関しての魅力・奥深さや大変さについて体験することができました。1つの製品を作る過程で多くの人が関わり、時間や労力がかかっていると実感しました。また、視野を広げるという当初に設定していた目標を達成することができたと思います。さらに社会人として大事な“報告・連絡・相談”の心構えやビジネスマナーについてもインターンシップを通じて学ぶことができました。

インターンシップに参加したことで私の新たな一面を発見できました。それはリーダーシップを取ることができるという点です。今まで私はそのような経験をしたことはなく、ずっと私の短所は積極性がないことだと思っており、リーダーシップとは縁がありませんでした。しかしインターンシップ中に、話がまとまらない時には意見を出すことを心がける中で、自然とリーダーとしての役割を担うことができました。この経験は私にとって大きな変化で、自信が持てるようになりました。

このようにインターンシップは、貴重な体験の場であり、多くの事を学ぶことができました。

松山東雲女子大学

心理子ども学科
3年

かまた みお
鎌田 未央

研修先 自衛隊愛媛地方協力本部

私は、今まで働くということは社会の中で生きていくためだと考えていました。しかし、松山駐屯地で新隊員の方々の訓練されている姿や、他の隊員の方が仕事に取り組んでいる姿を見て、自分の利益のためだけに働くのではなく、働くということは社会に貢献するためののだと気付かされました。

私は、今まで実習に行く機会があり、その度に社会に出ることに対して不安が大きくなり、社会人になることにマイナスの気持ちばかりが膨らんでいました。しかし、今回の研修では、自衛隊員の方々が、女性も男性も同じように訓練や民生活動などを通し、社会貢献している姿を見て、本当に素敵に見えました。そして、私も社会人になったら自分の行いで何らかの形で社会貢献をして、誰かの役に立てようという社会人になりたいと強く思いました。そのためには、大学生の間に沢山の経験をし、社会に出た時に、立派な社会貢献が出来るよう学び続けていきたいと思いました。

松山東雲短期大学

現代ビジネス学科
1年

はまだ あきほ
濱田 晃希

研修先 松山ヤクルト販売株式会社

インターンシップに参加してみて、自分の性格が変わったことを大きく感じます。今までの自分は周りからの目をとても気にしてしまいう性格でした。物事をなす時、変に思われまいかと気にしてしまい、なかなか実行におこせないことが多々ありました。しかし今回のインターンシップを通して自分の行動に自信を持つことができました。理由は営業活動という自分にとって苦しい体験を約4日間続け、相手にどう思われているかより、相手のことを思いやることのほうが大事だと気づいたからです。そうすると心が楽になり自分の伝えたいことが落ち着いて言えるようになりました。まだまだ責任感も仕事の能力もありませんがコツコツやっていき、知識や教養を十分に吸収していきたいです。

社会人になるために、これからの学生生活でできることにはどんどん挑戦していき、目上の方との交流をもち、今よりも責任ある人間になりたいと思います。

聖カタリナ大学

人間健康福祉学部
人間社会学科 3年

ながみ かんた
永見 幹太

研修先 トヨタL&F西四国株式会社

私は、就職活動に向けて職業についての知識を深めたいと思い、大学コンソーシアムえひめのインターンシップに参加しました。今回の研修では、座学、営業同行、事務職の体験を行いました。その中で最も印象に残っていることは、座学での「働くことでの充実感」についてのお話です。働く上で得ることのできる充実感といえは給料や休日がありますが、これらはキリのない欲求であり、充実感にはつながりにくいものです。もう一方で、仕事をする上での楽しみや、人の役に立ったり必要とされたりするというやりがいがあれば、仕事における充実感を満たすことができます。そのため、充実感を満たすためには、「何のために仕事をするのか」という目的意識を持ち、それを達成するために努力していかなければならないことを学びました。

今回の研修では、業務内容についての知識だけでなく、働く上での考え方について多くを学ばせて頂きました。今後はこの経験や考え方を大切に、就職活動を行いたいと思います。

研修生受け入れ企業 担当者アンケート集計結果から

今後のインターンシッププログラムをより良くしていくため、今年度に参加していただいた99の企業・団体のご担当者に対して研修が終了した平成27年9月にアンケートを実施。そのうち78社から回答を得ました。

インターンシップ研修生を受け入れていただき、得られた効果としては「学生の就業意識が向上した」「指導にあたった社員が成長した」「大学や学生に自社の認知度を高められた」など、本事業の主旨をご理解いただきつつ、受け入れが組織の活性化やPRにも貢献していると、8割方企業・団体の皆様に感じていただいております。

反面、「学生の意見や提案が仕事の改善につながった」点については回答の分布が平準化しており、受け入れた学生のスキルによって差が生じることがうかがえます。また、「(受け入れが)新卒採用の指針作成に役立っている」「(受け入れは)繁忙期の人員確保の役割を果たしている」点についても同様の結果が表れていますが、受け入れた企業・団体が本事業の主旨をよく理解していただき、新卒採用や人手の確保とは一線を画した対応をしていただいている結果かと思われます。

今年度、研修生を受け入れていただいた企業・団体の大部分がそのメリットを感じていただき、今後も継続して受け入れる意向を示していただいたことは、本事業への理解が進み、定着しつつあると考えております。



受入企業・団体一覧（順不同）

1 株式会社 アール・シー・フードバック	51 株式会社 ダイキアクシス
2 あけはまシーサイドサンパーク株式会社	52 太陽石油株式会社
3 株式会社 アステティックジャパン	53 株式会社 田窪工業所
4 株式会社 ありがとうサービス	54 DCMダイキ株式会社
5 今治市役所	55 株式会社 テレビ愛媛
6 株式会社 今治.夢スポーツ	56 東温市役所
7 特定非営利活動法人 いよココロザン大学	57 東京海上日動火災保険株式会社
8 伊予市役所	58 東京第一ホテル松山 八紘開発株式会社
9 伊予鉄道株式会社	59 トヨタL&F西四国株式会社
10 伊予病院	60 南海放送株式会社
11 株式会社 ヴァンサンカン	61 新居浜市役所
12 株式会社 内子フレッシュパークからり	62 ニンジニアネットワーク株式会社
13 宇和島市役所	63 NPO法人 俳句甲子園実行委員会
14 株式会社 エイチ・アイ・エス	64 特別養護老人ホームはかた寿園
15 SMBC日興証券株式会社	65 濱田農園
16 特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク	66 はるやま商事株式会社
17 愛媛県	67 株式会社 ファースト・コラボレーション
18 愛媛県警察本部	68 特定非営利活動法人 ぶうしすてむ
19 愛媛県司法書士会	69 株式会社 フェローシステム
20 愛媛県立とべ動物園	70 株式会社 フジ
21 株式会社 愛媛CATV	71 二神塾
22 国立大学法人 愛媛大学	72 ベストケア株式会社
23 えひめ中央農業協同組合	73 星企画株式会社
24 愛媛トヨタ自動車株式会社	74 株式会社 ホテル椿館
25 有限会社 愛媛ヒアリングエイド(えひめ補聴器センター)	75 公益財団法人 松山市男女共同参画推進財団
26 株式会社 えひめリビング新聞社	76 社会福祉法人 松山市社会福祉事業団 松山市久枝障害者生活介護事業所
27 愛媛労働局	77 松山市役所
28 株式会社 エフエム愛媛	78 松山赤十字病院
29 有限会社 遠藤青汁	79 松山総合開発株式会社 松山全日空ホテル
30 株式会社 尾崎設計事務所	80 学校法人 松山大学
31 一般財団法人 休暇村協会 休暇村 瀬戸内東予	81 松山ヤクルト販売株式会社
32 株式会社 共立メンテナンス(森の国ホテル)	82 株式会社 マルナカ
33 株式会社 クック・チャム四国	83 株式会社 マルブン
34 学校法人 慶応学園慶応幼稚園	84 株式会社 三好鉄工所
35 こうち人づくり広域連合	85 株式会社 地域法人 無茶々園
36 NPO法人こころ塾	86 株式会社 村上水軍
37 認定こども園小羊園	87 株式会社 やまびこ(霧の森)
38 西条市役所	88 八幡浜みなっと みなと交流館(NPO法人港まちづくり八幡浜)
39 佐川印刷株式会社	89 有限会社 やわらぎ
40 株式会社 サニクリーン四国	90 株式会社 ヨシケンコーポレーション
41 自衛隊愛媛地方本部	91 合資会社 ワークショップco.松山
42 四国通建株式会社	92 NPO法人ワークライフ・コラボ
43 株式会社 ジョイ・アート	93 ネットヨタ南国株式会社
44 学校法人 勝愛学園 認定こども園	94 株式会社 ジェイアール四国ホテル開発 ホテルクレメント宇和島
45 ジョブカフェ愛work(愛媛県若年者就職支援センター)	95 株式会社 コモテック
46 株式会社 スイッチカンパニー	96 株式会社 ビオトープ
47 聖カタリナ大学	97 株式会社 レスパスコーポレーション
48 生活協同組合コープえひめ	98 株式会社 日本エイジェント
49 株式会社 セブンスター	99 株式会社 ガリレオコーポレーション
50 全国「道の駅」連絡会	